

海軍ニュース：大連空母の進捗状況

漢和防務評論 20150504

阿部信行

(記者コメント)

大連で建造中の中国国産空母の進捗状況について、漢和防務評論に関連記事がありましたので紹介します。

現在は室内での建造作業中ということで、未だ船台に載っていないようです。したがって衛星写真などには写らず、情報が限られています、いずれ明らかになるでしょう。

KDR 特電：

KDR は、以前、大連で建造される中国国産空母は 2013 年下半期に鋼板切断儀式が行われたと報道した。消息筋によると、2014 年には室内ドックにおける分割建造段階に入ったようだ。この段階は順調に進展している。軍内部で” 精品工程” と称される大連空母建造に対する品質への要求は厳格であり、また作業を急がせてはいないようだ。したがって計画では 2020 年に進水、全建造過程は 7 年で、艤装、海上試験に 2 乃至 3 年かかるので部隊配備は 2023 年頃になるはずだ。

KDR は、大連造船所を詳細に観察している。同造船所の警戒は厳しい。早朝 7 時には工員たちが続々と工場に入っていく。携帯する身分証明書がはっきりと見て取れる。彼らは如何なる質問にも回答を拒否し秘密を守ろうとしている。このことから空母の建造はすでに開始されたものと推測される。KDR は空母の建造工場が隔離された立ち入り禁止区域であることは知っている。052D 型のようなミサイル駆逐艦を建造するときも、また過去に 051C 型駆逐艦を建造したときもこのように厳重な秘密保全体制ではなかった。KDR は、2014 年の段階で、大型商船の分割建造作業が無いのに、なぜこのように多くの工員が工場に入っていくのか分かっていて、2014 年 3 月の大連造船所の室外ドックの衛星写真によると、艤装中の 1 艘の商船が見えた。それより以前に、KDR はドイツとフランスの造船専門家から、空母の建造のための各部の接合には大量の酸素設備が要ること、通常はドックまで多くのコンテナで部品が運ばれてくることを知った。2014 年 3 月の衛星写真ではこの傾向が見られなかった。このことから、2015 年における空母の分割建造作業はドックにおける接合段階ではなく、依然として室内での建造段階にあるものと思われる。言い換えれば、空母が船台に載るのは 2016 年以降になる可能性があるということだ。そうなれば衛星写真によって大連空母の概略の寸法が分かる。

常州は、空母の導線を生産している。同工場は自身のホームページで宣伝しようとしたが即刻削除された。導線生産は容易な作業ではない。導線の全長は数十万 KM に達する。事前に模型を使って導線のテストをしなければならない。これが武漢の陸地に空母の模型を建造した理由であろうか？観察する価値がある。空母の配電盤

は依然鎮江で生産されている。この情報は KDR が独自に入手したものであり、このことから”遼寧号”が必ず軍用に改装されると KDR は推測した。これは十年以上前の話である。

ロシアの大型軍用艦船の製造活動と比較すると、ロシアはソ連の解体によって技術的に中国よりも遅れた可能性がある。2 艘の 2 万トン級ドック型揚陸艦は今のところ提供されないであろう。理論上、ロシアは大型揚陸艦、或いは空母の建造能力がある。しかし空母建造は 2020 年までの計画にはない。優先事業ではないのだ。ロシアの大型造船所、及びドックの規模を、中国の大連、江南長興島、外高橋、及び渤海造船所と詳細に比較すると、ロシアの方は小さくて数も少ない。さらに中国の各大型造船所は現在積極的に拡張中である。ロシアの時代になってから建造された最大の水上艦は 4000 トンのミサイル駆逐艦だけだ。

このことから推算すると、中国海軍の空母建造のピークは、2023 年以降の可能性があり、その時には最初の空母建造の経験がそれ以後の空母建造の大きな力になるものと思われる。

以上